

14. 空運



業界動向

海外市場動向～中長期的には成長トレンド

世界全体では、①新興国の経済成長や②LCCによる新規需要創出等により、国内線・国際線共に輸送需要が堅調に推移しており、足元5年間に於いて有償旅客キロ(注1)年平均成長率+約7%で増加しています。

こうした旅客需要の増加を背景に、総じて機体の稼働率は前年を上回る水準で堅調に推移しています。

国内市場動向～インバウンド旅客数が需要を押し上げ

昨年9月に関西国際空港の機能低下や北海道胆振東部地震等の震災により一時的な旅客需要の減少は見られたものの、通年で見れば国際線、国内線ともに堅調に市場が拡大しています。とりわけ、訪日旅行客数の伸び等は依然として好調であり、国際線需要を押し上げている状況です。

(注1)有償旅客数に各飛行区間の距離を乗じたもの。

今後の見通し

羽田発着枠の拡大～国内航空会社に成長機会を提供

国土交通省は、地元住民の理解を前提に、20年の東京オリンピック・パラリンピック前までに新ルート開設により国際線の発着枠を増加(年6万回から9.9万回に増加。1日当たり約50便の増加)する方針としており、日本政府は本年1月に飛行ルートについて米国と基本合意しています(注2)。

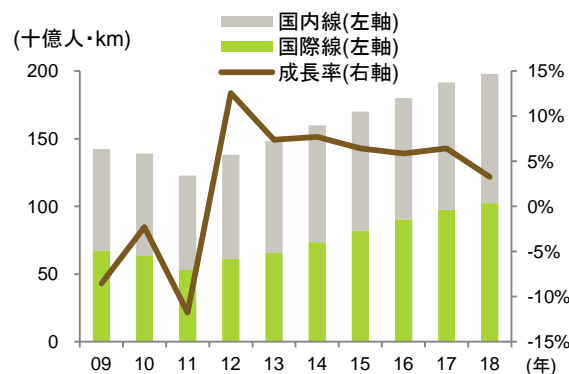
同省は、増枠分の割り当てについて、各国政府や関係各社と現在調整を進めています。配分先は未詳ながら、各社はこれを更なる成長機会とするために人材や機材確保等の準備を急いでいます。

LCCの中長距離便強化の動きが進展～新たな旅客需要の獲得を企図

足元では国内外LCCプレーヤーによる中長距離便強化の動きが活発化しています。ANAホールディングス、日本航空は、インバウンド旅客需要の更なる増加が見込まれる20年を目処に中距離LCC事業に展開することを目指しており、今後の動向に注目が集まっています。

(注2)新ルートは米軍が管制を担う横田空域を通過することから、米国の同意が必要となっていた経緯。

図表1 日本の民間航空輸送実績(有償旅客キロ)
～12年以降堅調に成長



(注)成長率は前年同期比。

出所: 国土交通省「航空輸送統計年報(速報)」より弊社作成

図表2 世界の直近売上高上位10社(ランキング)
～中東・中国系プレーヤーが台頭

順位	企業名	国	売上高(億円)
1	American Airlines	米	48,868
2	Delta Air Lines	米	48,755
3	Deutsche Lufthansa	独	47,186
4	United Continental Holdings	米	45,316
5	Air France-KLM	仏	33,308
6	IAG	英	30,658
7	Emirates	UAE	29,734
8	Southwest Airlines	米	24,099
9	China Southern Airlines	中	23,171
10	Air China	中	21,885
11	ANAホールディングス	日	20,493
14	日本航空	日	14,683

出所: 各社決算開示資料より弊社作成

図表3 中長距離LCC事業に関する今後の流れ
～2020年までに各社は取組を加速

時期	イベント
2019年度内	Peach Aviationとバニラ・エアが統合予定
2020年夏季	日本航空が中長距離LCC事業を開始予定(拠点は成田空港)
2020年中(時期未定)	ANAホールディングスが同年を目処に中距離LCC事業を開始予定

出所: 各社決算開示資料より弊社作成